

令和5年度 鹿児島学習定着度調査結果について

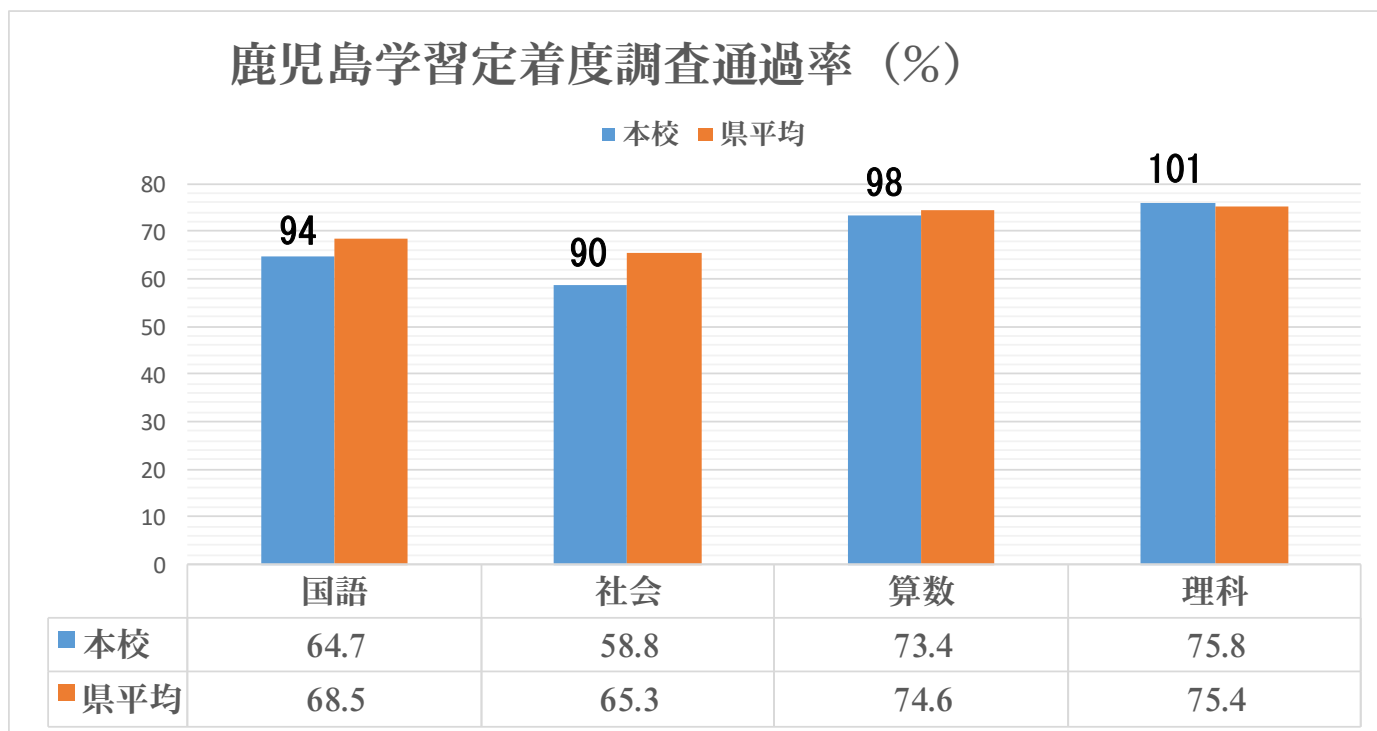
令和5年度の鹿児島学習定着度調査が、5年生を対象に令和5年1月16日(火)と17日(水)に、「国語，社会，算数，理科の4教科」で実施されました。

この調査は、基礎的・基本的な知識及び技能や思考力，判断力，表現力等に関する学力の状況を把握するとともに，全県的な傾向との比較・分析などを通じて，自校の課題を明確にし，問題解決的な学習活動を取り入れるなど，指導の方法を改善し，児童の学力向上を図ることを目的として，実施されています。

本校の5年生の結果は次のとおりでした。

1 自校・県の平均通過率の比較

【参考：令和6年2月5日現在の県速報値】



※ グラフ上の指数は，県の結果を100としたときの本校の指数

2 課題と改善策

(1) 国語科

国語科は県の平均通過率をわずかに下回っています。特に「書くこと」に課題が見られます。語彙力が不足しているため，文章の意味を理解できなかったり，解答を適切に表現できなかったりするという課題があります。また，接続詞を正しく使って，前後の文章に合わせたり，主語や述語を正しく使って文意に沿った文が書けなかったりするという課題もあります。

そこで，課題を解決するために，授業では，各学年の発達段階に応じた語彙表を作って，その言葉を使って文章を書く練習をさせたり，毎日の日記指導の中では，主語や述語，接続語の正しい使い方を継続して指導したりしていきます。また，友達に自分の考えを伝える時に，抽象的な言葉や指示語，形容詞をなるべく避けて，相手意識をもってよりよい表現ができるように，自分の考えを推敲する習慣を身に付けさせる取組もしていきます。

(2) 社会科

社会科は県の平均通過率を下回っています。特に、グラフや図を読み取り、関連付けて問題に答えることに課題が見られます。

そこで、課題を解決するために、授業では、地図やグラフの基礎的な読み取り方の技能を定着させる時間を位置付けるようにします。また、多面的に読み取ることができるように、学び合いの際に、資料を用いて、友達に伝えることで、自分の考えの根拠を明確にしながら伝える機会を確保します。さらに、学び合いで高めた自分の考えを整理して書く活動を取り入れていきます。

(3) 算数科

算数科は県の平均をわずかに下回っています。特に、文章問題に苦手意識をもつ子供が見られます。

算数科の文章問題を解くステップは、語句や文章の内容理解→イメージ化→立式→計算→解答という流れになっています。そこで、授業では、内容理解を促すために問題文を音読するなどして意図を正しく読み取ることができるようにします。また、尋ねられている部分や大切な部分に下線を引かせることで意識付けを図ります。さらに、図に書いたり、具体物を用いたりする活動を通して、何を尋ねられているかイメージ化できるようにします。

授業の振り返りでは、navima等の良問に継続して取り組み、問題に慣れるようにします。

(4) 理科

理科は県の平均を上回っています。しかし、水温による食塩とミョウバンの溶解方のグラフから水温を下げた時の水溶液の様子を考える問題に誤答が多く見られました。

そこで、課題を解決するために、授業では、日常生活と関係の深い事柄を取り入れて展開したり、学習したことを身近な生活の場面に関連付けて考えたりするなどの指導の工夫に取り組んでいきます。また、観察などで得た結果を、自分なりに分析し、グラフや図に表し、自分の考えを明確にもつことができないという課題がありますので、観察や実験の結果をノートやロイロノート等に図や文章でまとめる時間を確保し、具体物を提示しながら発表する活動を取り入れていきます。

今後、学校では、当該学年だけでなく、全学年で、習得しなければならない内容を習得することができるように、これまでの学習内容の復習を繰り返しながら、補充学習や発展学習を行うなど、具体的な対策を講じていきます。

また、御家庭とも連携を図りながら、学習習慣や生活リズムを身に付けられるよう努めていきますので、御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。